

料金別納郵便



日本陶磁協会 現代陶芸奨励賞 中国・四国 受賞記念

田原崇雄 展

令和4年7月14日(木)~20日(水) 会期中無休

開廊時間：午前11時~午後7時(最終日20日は午後5時まで)

作家在廊日：会期中、全日在廊予定

日本陶磁協会 現代陶芸奨励賞は、地方のつくり手を発掘し奨励するため、開催年ごとに対象地域を変えながら行う公募展です。北海道、北陸、近畿に続き、令和2年(2020年)には中国・四国地方を対象に「鑑賞」「茶陶」「生活の器」の三部門で公募しました。その受賞を記念した個展を開催いたします。

田原崇雄さんは、萩焼の伝統的な薬白の釉を使い、その静かであると同時に変化が見られる釉の流れと、それを見せるための安定感のある形が高く評価されました。

禾目(のぎめ)のような縦筋が走り、縁と釉の厚みにところどころ現れる青い細い筋。

田原崇雄さんは、奨励賞の受賞により、流白釉(りゅうはくゆう)の上がり具合にこれまで以上に注意を払うようになりました。造形の際立つ作品も手がけていますが、流白釉の作品は釉を見ていただくために形は抑制されたものになったと言います。つくり方の大きな特徴は二度焼きであること。焼成の条件がわずかでも合わないと、その表情は上から下まで単調なものになってしまう。一度めの焼成では、無表情に近いですが、釉を再度掛け二度めの焼成をすると、表情が現れてきます。どこか重厚感があるのは、縦の筋が実行ぎのある層になっているからでしょうか。

本展ではこの流白釉の作品を中心に萩の新しい表現に挑戦した作品が並びます。ご覧ください。

坂井基樹 (公益社団法人 日本陶磁協会 事務局長)

柿付ギャラリー
KAKIDEN GALLERY

160-0022 東京都新宿区新宿3-37-11 安与ビルB2階
03-3352-5118 gallery@kakiden.com
https://www.kakiden.com/gallery/

公式Instagram



コロナ禍の影響で、会期と作家在廊日等の変更や、オンライン展示のみの可能性もございます。
お手間で恐縮ですが、弊廊ホームページや公式SNSにて、最新情報をご確認頂ければ助かります。



田原崇雄 陶歴

昭和 57 年 山口県長門市に生まれる
平成 17 年 東京藝術大学 卒業制作展 菅原賞
平成 19 年 同大学大学院 美術研究科 彫刻専攻 修了
平成 22 年 美濃にて修行 (師 豊場惺也先生)
平成 23 年 父 十三代 陶兵衛に師事 作陶に入る
平成 28 年 日本伝統工芸展 入選 (以後 6 回入選)、山口県美術展 優秀賞
平成 29 年 萩傳流一若手作家六人展一 (柿傳ギャラリー)
平成 30 年 エッフェル塔茶会【フランス・パリ】
平成 31 年 山口伝統工芸展 日本工芸会山口支部長賞
萩傳流Ⅱ一濫觴より一 (柿傳ギャラリー)
令和 2 年 日本陶磁協会 現代陶芸奨励賞 中国・四国展「鑑賞」部門 奨励賞
令和 3 年 萩傳流Ⅲ一付合一 (柿傳ギャラリー)
現在、日本工芸会 正会員